

## 令和7年度から教育DX推進訪問研修会が始まります！

過日、令和7年度宮城県教職員研修計画がセンターホームページで公開されました。令和7年度専門研修「情報教育に関する研修」がリニューアルし、研修会の名称とその内容を変更していますので、ぜひご覧ください。

今回は、新しく始まる「教育DX推進訪問研修会～学校及び教育委員会単位での支援による教育DXの推進～」を紹介します。この研修会は、これまでのセンター集合型の研修会とは異なり、学校や教育委員会にセンター指導主事が複数回の訪問を行い、学校や教育委員会と共に課題解決していく訪問支援型の研修会です。

教育DXを推進したい学校や教育委員会の課題を共有しながら、実情に合わせた研修内容にすることができそうです。校内研究等でセンター指導主事と共に教育DXに取り組んでみませんか。詳細は後日、県立学校及び市町村教育委員会に通知させていただきますのでご確認ください。

	学校単位	教育委員会単位
対 象	県立学校、市町村立学校 5校程度（1年間）	1市町村委員会（2年間）
期 間	令和7年5月～令和8年1月	1年目：令和7年5月～令和8年1月 2年目：令和8年5月～令和9年1月
回 数	2～3回	3～4回／年
時 間	研修会等の実施は、放課後2時間程度（長期休業期間は終日も可能）	

## Mナビ新聞で校内研修!! ～この一年間のICT活用を振り返ってみませんか～

授業におけるICT活用は、教員主体から子供主体の活用にシフトしつつありますがそのような学校であっても、始めから子供主体の活用を進めてきたわけではありません。教員主体の活用からはじめ、徐々に子供たちに活用させています。今回は、教員のICT活用指導力・大項目Bに関する簡単な質問を用意してみました。御自身の普段の授業を思い出し、当てはまるものには○、当てはまらなければ×を付けてください。

教員のICT活用指導力を示す項目	質 問	○×
大項目B「授業にICTを活用して指導する能力」	・ 授業中に、教材や作業を大きく表示して提示している。	
	・ カメラ機能を使って、教材や資料等を撮影している。	

教員主体のこのような活用は、普段から実践されているのではないのでしょうか。このような活用ができていのであれば、3月に行われる文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」（以下「文科省調査」という。）で「できる」「ややできる」に○を付けていただける状況であるということは、Mナビ新聞第33号でお伝えしたとおりです。

さらに、このような活用ができていれば、子供主体の活用をすることができるのではないのでしょうか。例えば、子供たちが学んだことを資料やスライド等にまとめ、大きく表示して発表させる、カメラ機能等を使って授業の学びの過程を子供たちに記録させる等の子供主体の活用にしていくことができます。このような活用ができていれば、文科省調査の大項目C「児童生徒のICT活用を指導する能力」でも、「できる」「ややできる」に○を付けられると希望します。

今や当たり前に行われている活用について、もう一度、振り返ることも大切になります。教員主体の活用から子供主体の活用になり得る場面を他の先生方と職員会議等と一緒に考えて、一歩先へ進んでみませんか。

<話し合ってみよう!>

隣の席の先生と子供主体のICT活用について、「普段の活用方法」や「取り組めそうな活用方法」、「隣の先生のICT活用で聞いてみたいこと」等について情報交換をし、明日からの授業づくりに活かしましょう!

# 実践事例紹介 みやプロGo!を使った授業実践 小澤 裕佳子 先生



総合教育センターの令和5年度長期研修成果物『プログラミング教育パッケージ「みやプロ Go!」』を活用した授業実践例を紹介いたします。

「みやプロGo!」  
ホームページ

今回は、宮城県仙台南高等学校の小澤先生の事例をご紹介します。

学校名	宮城県仙台南高等学校	教科、領域	英語(論理・表現 I)							
概要	<p>・主な学習活動 ★活動の留意点 ○生徒の反応</p> <p>単元名: 論理的に考えてみよう!(本時 1/1)                  テーマ: プログラミング的思考の「組合せ」を取り入れた英作文指導                  目的: 意見の異なる相手にも伝わるように、論理的な英文を作成するため、主張・理由・具体例(サポート文)を適切に組み合わせる力を育成する</p> <p>授業概要: 英作文における適切な要素の組合せの重要性を考えさせる                  ・本授業では、プログラミング的思考の一つである「組合せ」を英作文指導に取り入れました。「主張」「理由」「サポート文」を適切に組み合わせることで、論理的で説得力のある英文を作りました。</p> <p>★意見や価値観が異なる相手を納得させるためには、文法の正確さだけではなく、適切な要素を組み合わせて、論理的な英文を作る必要があります。この点を生徒に気付かせるために、以下の活動を行いました。</p> <div data-bbox="906 680 1442 909" data-label="Table"> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">プログラミング的思考についての体系表例</th> </tr> <tr> <td></td> <td>Stage4 (目安: 高等学校)</td> </tr> <tr> <td>組合せ</td> <td rowspan="2">□多様な視点で、適切な要素の組合せを作る</td> </tr> <tr> <td>要素の組合せを作る</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">みやプロGo!</p> </div> <p>活動内容: 後期スピーチテストの代表的な回答例を改善させる                  ・「授業内のタブレット使用の是非」をテーマにした後期のスピーチテストで多かった回答を一部変更して使用しました。                  ・生徒のスピーチでは、主張に“I think using tablet PC in class is good,”理由に“because it is fun.”という回答が多く聞かれました。今回の授業は、この回答が「文法的には正しいが、相手を説得するには不十分である」ことを理解し、不十分である理由は何か、そして、より良い回答にするにはどうしたらよいかを、ペアワークで考えました。</p> <div data-bbox="810 999 1442 1339" data-label="Text"> <p>Aさんの主張が<b>より論理的</b>になるように、適切なサポート文を選ぼう</p> <p><b>主張</b> I think using a tablet PC in class is good,  <b>理由</b> because it is fun.</p> <p><b>サポート文</b>                  We can play games by using it.                  We can use apps to learn new things.                  We will fall behind the world if we don't use it.</p> </div> <p>○生徒から上がった意見の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“fun”は主観であり、説得力を持たせるためには客観的事実も必要なのは</li> <li>・主張と関係のない play games などの具体例は説得力に欠け、組合せとしては適切でないと思う</li> <li>・生徒 A 理由の“fun”は授業と関係のある“useful”などに変えてはどうか                  生徒 B “useful”をサポートする具体例はどのようなものがあるだろう                  生徒 A Using the internet on a tablet, we can learn about news about different countries around the world in English. (一部改変)</li> </ul> <p>以上のように、本授業では、プログラミング的思考の「組合せ」の考え方を取り入れ、主張と理由、適切なサポート文を組み合わせ、以前のスピーチテストの回答を、より論理的で説得力のある回答にすることができました。</p>			プログラミング的思考についての体系表例			Stage4 (目安: 高等学校)	組合せ	□多様な視点で、適切な要素の組合せを作る	要素の組合せを作る
プログラミング的思考についての体系表例										
	Stage4 (目安: 高等学校)									
組合せ	□多様な視点で、適切な要素の組合せを作る									
要素の組合せを作る										
使用機材	教員使用端末: タブレット端末(iPad)、プロジェクター									
先生方へ	<p>本時の学習では、価値観の異なる相手に伝わる英文を作る際の手立てとして、プログラミング的思考の「組合せ」を活用しました。「みやプロ Go!」では、小学校や中学校だけでなく、高等学校の各教科の中でも活用することのできる学習活動例やコンテンツを多数掲載しています。ぜひ普段の授業でご活用ください。</p>									

## 編集後記

今号は、次年度に新しく始まる教育DX推進訪問研修会について紹介させていただきました。教育 DX を推進したい学校や市町村教育委員会と課題を共有しながら、センター指導主事と共に教育 DX に取り組むことができます。申込みについてご検討いただければ幸いです。 【第36号担当: 情報教育班 千坂】